

NEWS RELEASE

「タワーレコード 夏フェスフォトコンテスト supported by PENTAX」 受賞作品が決定！

9/25 発行の bounce ならびに特設 WEB サイトにて全受賞作品を紹介

タワーレコード株式会社(本社:東京都品川区 代表取締役社長:高木 哲実 以下タワーレコード)では、HOYA 株式会社 PENTAX イメージング・システム事業部 ならびに株式会社アスカネットの協力の下、7月22日(木)から8月31日(火)の期間で一般公募していたフォトコンテスト「タワーレコード 夏フェスフォトコンテスト supported by PENTAX」で、この度、各受賞作品が決定いたしましたので、お知らせします。

応募された約 1,000 点の中から、今回、受賞した作品=審査員を務めたカメラマン平間至氏、同じくクリエイティブディレクターの箭内道彦氏、ペンタックス コンテスト審査員の池永一夫氏の3賞(各1名様)を始め、ペンタックス賞(1名様)、タワーレコード賞(10名様)を受賞した14作品については、9月25日(土)に発行するタワーレコードのフリーマガジン「bounce」にて紹介いたします。さらにアスカネット賞(50名様)を含む受賞作品全64作品が、9月24日(金)より「タワーレコード 夏フェスフォトコンテスト」の特設 WEB サイト【<http://tower.jp/fesphoto>】にて公開されます。



平間至 賞(1名様)



受賞作品:「カラカラフルフル」ツナマヨハズカ様
会場:RISING SUN ROCK FESTIVAL 2010 in EZO

—平間氏コメント—

魚眼レンズを非常に効果的に使って、カラフルな旗と来場者をうまくまとめています。青空が地球のように見えて地球全体でフェスをしているような楽しさが伝わってきます。特殊なレンズを使っていながらも、自分の表現をしているところが良い。

「タワーレコード 夏フェスフォトコンテスト」特設 WEB サイト URL
<http://tower.jp/fesphoto>

「タワーレコード 夏フェスフォトコンテスト supported by PENTAX」について

タワーレコードがタワエコ活動を通し支援し続けている“夏フェス”をテーマに、夏の音楽シーン最大のイベントともなっている FUJI ROCK FESTIVAL'10、SUMMER SONIC 2010(東京/大阪)、RISING SUN ROCK FESTIVAL 2010 in EZO の4箇所の夏フェスを対象に、そこで撮影した写真を応募すると、入賞作品には PENTAX K-x レンズキットをはじめとする PENTAX 製品ならびにタワーレコードの夏フェス応援グッズ、アスカネットのかんたん MyBook 1冊無料クーポンなど素敵な賞品が贈られるというもの。

■本件に関するお問合せ先■

タワーレコード株式会社 広報室 担当:谷河(やがわ)、高橋、松本、伊早坂
TEL 03-3496-5245 E-mail press@tower.co.jp

■「タワーレコード 夏フェスフォトコンテスト supported by PENTAX」その他の受賞作品について■

各賞について(1 頁から続き)

※ すべての受賞作品については、特設 WEB サイト【<http://tower.jp/fesphoto>】または 9/25 発行の「bounce」をご覧ください。

箭内道彦 賞(1 名様)

受賞作品:「No Title」音 様
会場:FUJI ROCK FESTIVAL'10

—箭内氏コメント—

彼は将来ロックンローラーになるだろう。
NO, 現在すでにそうなのだ。



—審査風景—



池永一夫 賞(1 名様)

受賞作品:「ラストハイタッチ!!」 Hiroshi.N 様
会場:FUJI ROCK FESTIVAL'10

—池永氏コメント—

雨に濡れてハイテンション。きっと大地も
揺れています。ぶれによる効果でクライマックス
の臨場感が伝わってきます。夏の夢とでもいいま
すか雨粒が大きなボケとなっていて、とてもよいアクセントになっています。



ペンタックス 賞(1 名様)

受賞作品:「summersonic02」 cHi 絵 様
会場:SUMMER SONIC 2010 東京会場

—ペンタックス様コメント—

ドームで打ち上げられた花火が印象的です。
ドームの形状、花火の位置、全体の構図も良いと思います。
もちろん、フェスの賑やかな雰囲気も出ていて楽しそう。
席としては後ろの方なのですが、この席だからこそその楽しみがありますね。



—総評— タワーレコードより

タワーレコードでは、2010 年 7 月 22 日～8 月 31 日まで、夏フェスで撮影した写真を募集したところ、合計約 1,000 点の個性あふれる写真をご応募いただきました。誠にありがとうございました。フェス会場ごとに幾つか特徴的な傾向がありましたのでご紹介いたします。

まず、FUJI ROCK FESTIVAL'10 では、他のフェスに比べポートレートが多く、特に家族や子供の姿が目立ちました。FUJI ROCK FESTIVAL と共に年月を重ねてきたフジロッカーが、家族と一緒に来場するようになったのかもしれない。また印象的だったのは、夜に映えるオブジェやキャンドルなど演出された会場の風景が多かったこと。作り手側の創作や熱意が来場者に感銘を与えていることが伝わってきます。

SUMMER SONIC 2010(東京/大阪)は都市型フェスということもあり、一際暑さが伝わってくる写真が多く見られました。今年の SUMMER SONIC が猛暑だったことの特徴でしょう。その中、涼を求める方法の 1 つとして、きゅうりをセレクトした写真には思わず微笑んでしまいます。

そして、RISING SUN ROCK FESTIVAL 2010 in EZO では圧倒的に空の写真が多かったことが印象的でした。北海道の広い空と心地よい気候が撮影欲をかきたてるのでしょうか。今年は朝日が雲の中に隠れ日の出の瞬間を見ることができなかったためか、夕日のショットが多かったことも特徴的です。また前日までの雨により、泥や水溜りと格闘していたことがうかがえる光景も多く、現地の様子を如実に物語っています。

このようなフェス会場のリアリティや感動が伝わる素晴らしい写真が多く、審査員も審査しながらまるでフェスに行った気分になったようでした。それだけに審査も苦労いたしましたが、写真の出来に加え、フェス会場ならではの構図かつ臨場感のある写真を入賞作品として選定いたしました。